

[041] 語文研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10230>

出版情報：語文研究. 41, 1976-03-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：published
権利関係：



◇ 学 会 彙 報

▼講義題目 昭和50年度第1学期

(大学院) 国語学特研 国語学研究法(国語学史) 春日 教授
 (大学院) 全 演習 国語学資料研究(歌謡模式) 春日 教授
 (大学院) 全 特講 古代国語の研究 春日 教授
 全 特講 | 助動詞について | 春日 教授

(学部) 全 演習 万葉集巻十 春日 教授
 (大学院) 全 特研 アクセント史 奥村助教

(大学院) 全 演習 国語学の諸問題 奥村助教
 (大学院) 全 特講 国語史と方言研究 奥村助教

(学部) 全 演習 近世語(近松浄瑠璃) 奥村助教
 (大学院) 全 特研 平安朝文学研究の諸問題 今井 教授

(大学院) 全 演習 我身にたどる姫君 今井 教授
 (学部) 全 特講 源氏物語研究 今井 教授

(学部) 全 演習 伊勢物語 今井 教授
 (学部) 全 演習 浮世草子 中野助教

(大学院) 全 特講 近世文学の背景 中野助教
 (学部) 全 演習 西鶴 中野助教

(学部) 全 演習 近代作家論 教養部重松 教授
 (大学院) 全 演習 現代小説研究 重松 教授

(学部) 全 講義 近代詩研究 福岡大教授 講師
 (学部) 全 講義 福岡大教授 講師

▼昭和49年度卒業論文題目

西鶴の研究―町人物における意識の変遷 磯村 賢治

宮沢賢治童話研究

九大平曲譜本の研究

「宇治拾遺物語」の僧説話の性格について

萬葉仮名の研究―訓仮名を中心として―

立原道造論

落窪物語の研究

浜松中納言物語について―主人公の人物像を中心に樋口真理子

中古中世に於ける色彩語彙

源氏物語の研究

山口方言の一考察

小林秀雄論

(九月) 近世後期狂歌壇の基礎的研究

狂歌の研究

修士

島崎藤村の研究

▼九大国語国文学会総会並びに研究発表会

昭和50年6月8日

研究発表題目

富士谷成章のアクセント研究について

十訓抄の語彙について

伊東静雄小考―初期の詩から『哀歌』の詩へ―

「須磨巻」に関する一・二の問題について

近世女流紀行文の性格

伊藤美和子

小野 典子

鈴木三千子

高瀬 正一

大賀 京子

原野 綾子

諸富 敦子

矢野るみ子

山下 知子

山本 隆

岩本美智子

三浦 洋子

瓜生 清

野口 義広

檀田 良照

赤塚 正幸

中島あや子

板坂 耀子

古本説話集第六話「またましも」の歌の

解釈について

山口 康子
福田 益和

私なりの学究

副詞「いとど」について

白木 喬
原 栄一

漱石とジェイムズ思想

重松 泰雄

▼第二十五回西日本国語国文学会

昭和五十年九月二十・二十一日

於別府大学

研究発表(本会会員関係)

「春」についての一考察

瓜生 清
板坂 耀子

清源院軌子の紀行文

南里みち子

「三國伝記」中国説話の一性格

工藤 重矩

「蒙求」との関連説話について

鶴 久

秋月郷土館蔵「古今和歌集」の注について

鶴 久

「栲繩」「鼻繩」訓義考

鶴 久

▼第三十三回調点語学会

昭和五十年十一月七日 於九州大学法文系

研究発表(本会会員関係)

日本靈異記の用字法と訓釈との関係

原 栄一

三宝絵詞東大寺切迫考―文体と国語史的事象―

春日 和男

▼国語学会 昭和五十年秋期大会

昭和五十年十一月八・九日 於九州大学法文系

研究発表(本会会員関係)

筑前方言・そのアクセント―中央部・南部境・東部境―

稲川 順一

上方洒落本の敬意表現―江戸板と比較して― 矢野 準
シンポジウム(同)

国語史の資料と方法―方言国語史と文献国語史―奥村 三雄

▼訪書旅行 昭和五十年十月十二〜十六日

三年生十一名・四年生三名が天理図書館を訪問。京都・大和

路・伊賀上野を訪れた。引卒は春日先生、柏原助手。

▼卒業論文構想発表会 昭和五十年十一月二十六日 於会議室

▼新入会員歓迎会 昭和五十年十一月二十六日

本年度進学生一五名を迎え、うを新にて挙行。

▼会員消息

本会顧問高木市之助先生は、昭和四十九年十二月二十三日に御逝去されました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

本会顧問田村専一郎先生は、昭和五十年八月十二日に御逝去されました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

受贈雑誌(昭和五十年四月―十一月) ②

／近世文芸稿 (広島近世文芸研究会) 20 / 近世文芸ノート(生玉の会) 1 / 近代文学考(同人会) 3 / 調点語と調点資料56 / 研究会報(同志社国文学会) 56 / 研究紀要(静岡女子大) 8 / 研究紀要(阪大医療技術短大) 7 / 研究紀要(日大文科学研) 17 / 研究集録(阪大教養) 23 / 言語文化(橋本) 11 / 俱大国文(愛知県立大) 8 / 皇学館論叢 8 卷 2 3 4 / 甲南大学紀要文学篇15 16 / 甲南国文 22 / 神戸外大論叢 25 卷 1 6 / 語学文学(北海道教育大) 13 / 国学院大学紀要 13 / 国学院大学日本文学研究所報 11 卷 5 6 / 国学院雑誌 76 卷 2 3 4 5 6 7 8 / 国語学 100 101 102 / 国語学研究 14 / 国語国文 44 卷 3 4 5 6 7 8 9 / 国語国文学報(愛知教育大) 28 / 国語国文研究と教育(熊本) 3 / 国語と国文学 52 卷 4 5 6 7 8 9 10 11 / 国文お茶の水 42 43 / 国文学漢学論叢(東京教育大) 20 / 国文学研究(早大) 56 / 国文学研究資料館紀要 1 / 国文学研究資料館報 1 3 4 5 / 国文学踏査 10 / 国文学ノート(成城大) 13 / 国文学論集(山梨大) 13 / 国文白百合 6 / 国文鶴見 10 / 国立国語研究所資料集 9 / 国立国語研究所報告 54 55 / 古典と民俗(関西学院) 1 / 古典と近代文学 15 / 語文研究 39 40 / 語文論叢(千葉大) 3 / 語文(日大) 40 / 駒沢国文 12 / 相模女子大学紀要 38 / 札幌大学教養部女子短大部紀要 7 / 静岡女子大学国文研究 8 / 島根大学文学部紀要 8 / 樽蔭国文学 13 / 抄物研究(小林国語研) 1 / 抄物の研究 1 2 / 女子大国文(京都女子大) 77 / 女子大文学(大阪女子大) 20 26 / 書陵部紀要 26 / 人文科学紀要(東大教養) 60 / 人文学(同志社) 127 128 / 人文学報(都立大) 104 / 人文研究(神奈川大) 62 / 人文研究(大阪市立大) 26 卷 3 / 人文論究(

函館人文学会) 35 / 人文論究(関西学院大) 24 卷 4 · 25 卷 1 / 親和国文 9 / 成溪大学文学部紀要 10 / 成城国文学論集 1 2 3 4 / 青踏女子短大紀要 5 / 尊修国文 16 17 / 高崎経済大学論集 17 卷 3 4 合 · 18 卷 1 / 玉藻 10 11 / 千葉大学人文研究 4 / 中央大学国文 18 / 中世文学研究 1 / 肇国 376 377 380 382 383 / 帝塚山学院大学日本文学研究 6 / 東京女子大学日本文学 42 43 合 / 藤女子大学国文学雑誌 17 / 東北大学文学部研究年報 23 24 / 東洋大学大学院紀要 11 / 名古屋大学文学部研究論集 22 / 名古屋大学国語国文学 36 / 日本学術会議月報 16 卷 2 3 4 5 6 7 9 / 日本古典文学会会報 28 / 日本文化研究所研究報告(東北大同研究所) 別 12 / 日本文学研究(梅光女学院) 10 / 日本文学ノート 10 / 日本文芸研究 25 卷 4 · 26 卷 1 2 / 日本文芸論稿 6 / 能研究と評論 5 / 梅花女子大学文学部紀要 11 / 白路 30 卷 4 5 6 7 8 9 10 11 / 埴生野国文 5 / 比較文学年誌 11 / 一橋論叢 74 卷 1 2 / 広島女学院大学国語国文学会誌 4 / 文化(東北大) 38 卷 3 4 合 · 39 卷 1 2 合 / 文学科論集(鹿大) 10 / 文学研究(九大) 72 / 文学研究科論集(国学院大学) 2 / 文学論輯(九大教養) 22 / 文化と言語 8 卷 1 / 文教国文学 1 3 / 文経論叢・目録(1-10) / 文芸研究(東北大) 78 79 / 文芸研究(明治大) 32 33 / 文芸論叢(天谷大) 5 / 文芸論叢(立正女子短大) 11 / 文献ジャーナル 14 卷 2 3 4 5 6 7 8 9 10 / 文林 9 / 待兼山論叢 8 / 万葉 87 88 89 / 宮城教育大学国語国文 6 / 武庫川国文 7 / 明治大学人文科学研究年報 1 15 / 野州国文学 15 / 山辺道 12 / 横浜市立大学論叢 26 卷 1 2 合 / 立命館文学 352 / 354 合 355 / 357 合 / 琉球大学国文学哲学論集 19

ある。表面的には気楽に読めるものではあっても、それは親しみやすいという境先生の御人柄そのままなのであるが、こちらの熱意次第では奥に確かな手応えを持っているといえよう。

綿密な実証に裏付けられながらも、実証的論文が往々にして陥りがちな退屈さから脱却しているのは、先生の手腕を示すものであり、前三著と違って選書タイプの造本としたこととともに親しみ易い本になっている所以であらう。

〔近代詩と反近代〕昭和五十年三月・葦書房発行一七〇〇円

受贈雑誌（昭和五十年四月～十一月）①

愛知県立大学文学部論集25／青山語文12345／跡見学園国語科紀要23／演劇学^{（早大演劇学会）}16／大阪樟蔭女子大学論集12／大阪府立大学紀要22同目録（1～22）／大谷女子大國文5／大妻國文6／岡大國文論稿3／沖繩國際大学文学部紀要3卷2／音声学会会報148／会報（大学基準協会）28／学園論集26／学芸国語国文学3411／学大國文^{（大阪学芸大）}18／香椎潟2021／学習院大学文学部研究年報21／金沢大学教養部論集12／金沢大学法文学部論集22／金沢大学語学文学研究6／金沢文庫研究21卷23456710／北九州大学文学部紀要12／岐阜大学研究報告23／岐阜大学国語国文学11／九州文化史研究所紀要20／金城学院大学論集60